



JST だより vol.7

JST 支援者限定配信！



バイヨン中学校退学者について知りたい！①

2013年にバイヨン中学校が創設されてから6年目の現在、退学者数は年々増加傾向にあります。過去6年間で、入学者数1049人中、退学者数は107人にのぼりますが、昨年の退学者数は34人と過去最多となっています。彼らの多くは家庭の経済的問題により、退学しているのが現状です。そのような中、退学者は現在どのような生活をしているのか、学校を辞めどのような思いでいるのかなどを知るため、今年、バイヨン中学校を退学した2人の少女にインタビューを行いました。

ヌーム・ホンさん



プロフィール

年齢：19歳（2000年生まれ）

居住地：アンコールクラウ村 プラネット地区

家族構成：両親、7人兄弟（6番目）

学校を辞めた時期：2019年2月 当時中学3年生

学校には友達がいて、ゴミがなくきれいで、私にとって楽しい場所でした。特に体育の授業が好きで、女子サッカーチームのゴールキーパーもしていました。

将来の夢は、小学校の先生になることです。

学校を辞めてしまったので、叶えることは難しいかもしれません、バイヨン中学校で行われている中等教育退学者向けのタブレット授業（※注）を使って勉強したいなと考えています！

月に1日の休日は、焼き畑のお手伝いをしながら兄弟と一緒に森の中で遊んだり、芋ほりを楽しんだりしています。

（※注）タブレット授業：カンボジア教育省とユネスコが共同で実施を始めた退学者向けのe-learningプログラムという中等教育オンライン型授業。今年の3月、モニタリング校としてバイヨン中学校が選ばされました。現在は、中学3年生向けの教科のみですが、11種の科目をいつでも好きな時間に学ぶことができ、退学した生徒にとって有効的な教材となっています。バイヨン中学校では、現在このタブレット授業を利用する生徒数が13名います。



（彼女が働く電気店）

仕事について

職場：Borei Brembrei 市場内の電気店

勤務時間：7:00～18:00まで、月1日の休みを除く毎日

月収：125ドル。内100ドルは親に預けており、残りの25ドルで生活をしています。

学校退学について

学校を辞めた理由：バイヨン中学校在学中は、日曜日のみ、遺跡内の屋台レストランでアルバイトをしていました。しかし、その店がなくなり、働く場所がなくなったため、1日中働かなければならない今の仕事を始めたからです。学校退学は自分の決断です。校長先生には止められましたが、親の反対はありませんでした。

※在学中のアルバイト収入：2.5\$/1日。（勤務日：日曜日のみ、勤務時間：6:00～17:00）

小学校は家から遠く、体も小さかつたため、10歳で（遅れて）小学校に入学しました。そのため、学歴も遅れています。

家庭について

全体的に最終学歴が低く、兄姉は全員が小学校までしか通えていません。また、職業についても父の月収が約50ドルで、兄弟も出稼ぎに行ったり音信不通だったり、安定した職につけていなかったりという状況です。

現在、弟は中学1年生で、バイヨン中学校に通っています。兄姉からの資金援助は特になく、実質、彼女と父親が家計を支えています。



サ・ウェットさん



プロフィール

年齢：17歳（2003年生まれ）

住居地：アンコールクラウ村 プラネット地区

家族構成：母、5人兄弟（4番目）、父は病気で他界

学校を辞めた時期：2019年4月 当時中学2年生

学校は私にとって友達がいて楽しく過ごせる場所です。バイヨン中学校は私にとって特別な学校で、たくさんの授業があり様々なことを学ぶことができました。特に運動会と体育の授業が好きでした。

将来の夢は警察官になることです。給料の良い仕事に就きたいと思っています。

学校退学は親や先生の反対もありましたが、家計を支えるために自分で決断を下しました。できることなら、働きながら学校に通いたいです。

仕事について

職場：Borei Brembrei 市場内の電気店

勤務時間：6:30～18:30まで、月1日の休みを除く毎日

月収：125ドルの内、ほぼ全額を親に預け、自分は2.5ドルをキープして、なくなったら1ドルずつ親からもらって生活しています。

家庭について

ローンに関して：1年前に家の修理（木造の柱の交換、トイレの設置）のため、母親がローンで2つの会社から500ドル借りました。しかし、ローンが払えなくなり、田んぼを1つ売りましたが、それでも足りないため、サ・ウェットさんの給料からも返済をしています。

また、彼女の父親は病気で他界しています（年月日は不明）。そのため、彼女の母親が肥料づくりの仕事で稼いだ月収50ドルと、彼女の月収125ドルで生活をしています。姉（結婚して別家庭）からの資金援助はほとんどありませんが、時々1000リエル（0.25ドル）ほどのお菓子代をもらうそうです。



インタビューを終えて～インターン生の思い～

本心では本人も学校に通いたいと思っているのに、通えない。世界には、学校に通えない人が多くいることは知っていましたが、実際に目の前で話を聞いていると、その教育の機会の不平等さと、今の自分にはどうすることもできない歯がゆさを感じました。また、サ・ウェットさんの家は母子家庭という現状です。日本のように母子手当があれば少しでもこの状況を緩和することができたのではないかと思いました。具体的な将来の目標があり、嬉しく思いましたが、教育を受けられていないため、叶えることは困難です。日本のお子さんは具体的な夢を持っていても学校に行けるのに、夢を持つ彼女が学校に行けない。この皮肉な状況に、何とも言えない感情になりました。学校教育を受けられない彼女達の背景には、産業、インフラ、親の教育への理解など様々な問題があり、どこかで止めないと終わることのない負のサイクルであると感じました。

日本のお子さん達にも彼女たちの境遇や生活環境を知ってほしいと思いました。

授業を受けて、部活動に励んで、土日は買い物に行くという、日本では至って「普通」のことが世界の常識に当てはまらないこと、本当に恵まれた環境に生まれたことなど、頭では分かっていても、こうして実際にインタビューをして初めて痛感する事が多くありました。

彼らをこの環境から直接救い出すことは難しいです。しかし私達が、学校に行きたくても行けない、お腹がすいても食べるものがなく、病気になっても治療を受けることができない人々がいることを忘れず、恵まれた環境に日々感謝することを日本のお子さん達に伝えることで、カンボジアの未来に繋がるのではないかでしょうか。



バイヨン中学校にスクールマーケットを！～JSTの今後の計画～

バイヨン中学校は5つの村の中心に位置することから、JSTでは、現在、学校の敷地を利用した、スクールマーケットを計画中です。マーケットは、学校が運営することにより、生徒の自立支援の他、こうした家庭内事情で退学せざるをえない生徒のアルバイトの場にもなればと考えています。



だからいじめがない？～カンボジアの教育と仏教の教え～

バイヨン中学校の生徒達は、日頃からとても礼儀正しく、目上の人とすれ違う時には頭を下げて挨拶してくれたり、手を合わせて感謝の気持ちを現したりする姿が印象的です。聞くと、仏教信仰が彼らの生活に強く根付いていることが関係しているそうです。

先日行われた第2回バイヨン中学校文化祭でも仏教ブースが設置されていました。その仏教ブースの様子と、仏教がカンボジアの子ども達に与える影響についてご紹介いたします！

文化祭での仏教ブース

〈仏教儀式の紹介〉

ヴィサクボーチア

ヴィサクボーチアとは、お釈迦様が誕生された日、悟りを開かれた日、入滅された日を祝う儀式を意味します。



ミアクボーチア

ミアクボーチアとは、万仏祭を意味する言葉です。これは、お釈迦様のもとに1250人の弟子が集まったという奇跡を記念したお祭りですが、カンボジアでは豊穣を祝う意味もあり、僧侶やお釈迦様にノンバンチョック（魚のすり身をベースにしたカレー風そうめん）などの食べ物を奉納します。

〈バイヨン中学校エリアで行われている儀式紹介〉

カオチヨップ

カオチヨップとは、男の子供が髪をそり落とす儀式です。繁栄と健康を願い行うもので、インドの物語が由来となっています。また、髪をそるという行為は、親に感謝を示すという意味も持っており、バイヨン中学校エリア（特にプラサート・チャッ村）には今でもこの儀式を行う家庭があります。



バイヨン中学校 ルー校長



ルー校長が仏教ブースに込めた思い／生徒と仏教の関わり

文化祭での仏教ブースは、生徒にカンボジアの伝統的な儀式や習慣を理解してもらいたいと願って設置しました。

上座部仏教は、カンボジア国内で広く信仰されています。実際にバイヨン中学校の生徒のうち99%は仏教徒で、学校授業としても3か月に1度僧侶をお呼びして、説法をお願いしています。仏教は、もともとカンボジアの子ども達の身近にあります。彼らは幼い頃から寺に行って、説法を聞き、仏教の教えを受けてきました。カンボジア人は来世を信じ、功德を積むためにも寺を訪れます。また、今の生活や自身が置かれた環境は、前世の行いによるものだと考えているので、困難な境遇にあっても、ありのままに受け止め、来世には良い家庭に生まれ、良い人生を送れることを願って、功德を積むのです。

道徳授業の中では行儀、儀礼、敬いの精神などの教育が行われています。中には、僧侶の話を聞いて、自分の行動を反省し、涙を流す生徒もいます。

仏教は学校にとってなくてはならない教えだと思っています。仏教の教えがなければ、日本のようにいじめが起こるかもしれないですね。

仏教は生徒達の考え方方に深く浸透して、正しい道に導き、良い学習環境を作り出していると感じています。これらの教えと考えが社会の良い循環に繋がることを願っています！



～JSTより～

バイヨン中学校文化祭は、皆様からのJST寄付金により、実施することができました。この場を借りてご報告、お礼申し上げます。

✓ 生徒達が寄付！ソーラー外灯

先日行われた、バイヨン中学校文化祭では、クラス毎に屋台を出し、カンボジアの伝統的な食べ物や果物、飲み物などを販売していました。その売上金を生徒達が集め、中学校に1本75ドルのソーラー外灯が、3本寄付されました。また、以前から中学校で栽培を行っているハーブの売上金からも、ソーラー外灯が1本寄付されました。これら4本のソーラー外灯は、中庭中央部に設置され、夜中の防犯対策にも役立っています。

少しでも自分達の学校を良くしたいという、生徒たちの学校に対する思いが込められたソーラー外灯です。前頁で記載した、生徒達に身近な仏教の教えが、感謝する心や、人や身の回りの物を大切にする気持ちを醸成し、今回の寄付活動に繋がったのではないでしょうか。



✓ 卒業生による補習授業の実施

バイヨン中学校では、現在高校生の卒業生による補習授業が毎週日曜日の9:00～10:00に行われています。授業内容は、数学とコンピューターです。7～8年生（中学1～3年生）であれば誰でも受講が可能となっています。

授業は、分かる子が分からぬ子を教え、高校生が前に立つという生徒主体の授業形態がとられていて、お互いに協力、高め合うという良い雰囲気で行われています。

また、この授業の中で教える立場の高校生も、教えることに楽しさを見い出し、さらに自身の学びも深め、将来の目標や夢に繋がる経験となっています。

✓ 先生による中学3年生向け 補習授業

バイヨン中学校では、8月の卒業試験に向け、新たに、先生による中学3年生向けの補習授業を始めました。授業内容は、クメール語、理科、数学で、月曜日から土曜日の13:30～17:00に行われています。これまでの5年間は、中学校卒業試験に合格しなくても、出席日数さえ満たしていれば、中学校卒業証書をもらうことができましたが、今年からは点数が足りない場合、留年となります。そこで、留年者を出さないために、この補習授業が導入されました。

補習授業でしっかりと勉強をし、全員が卒業試験に合格できるよう、JSTも応援しています！（先生方にはJST寄付金から指導料をお支払いしています。）



✓ 陸上競技大会inプロンペン

6月中旬、プロンペンで開催された中高生の陸上競技全国大会に、バイヨン中学校から4人の生徒が出場しました！

この全国大会は、3か月ほど前に行われたシェムリアップ州の陸上大会で1位になった選手だけが出場できる大会です。

4人とも、暑い中、毎日、バイヨン中学校の校庭で一生懸命に練習し、そのうち3名は右記のように、素晴らしい結果を残すことができました！（この大会では中学生と高校生が同じ土俵で競います。）

～バイヨン中学校生徒の大会結果～

金メダル ポール・パットくん 8000m競歩（男子）

銀メダル ホル・ヘイくん 5000m走（男子）

銅メダル チュルッ・スレイノンさん 3000m走（女子）

～バイヨン中学校のルー校長の感想～

スポーツをすることによって健康になり、スポーツを通して国の発展に貢献できるのは素晴らしいことです。そして、バイヨン中学校のような田舎の子供でも頑張ればカンボジアで一番になれるということが証明できたことが誇らしく、とても嬉しく思います。

